

## 滋賀短期大学 令和8年度入学式 学長式辞

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。ようこそ滋賀短期大学へ。教職員、在校生一同、心から歓迎していることをまず申し上げます。

今年は桜の咲くのが遅かったのでどうなるかと心配していましたが、正門にある桜が今週になって咲き始め、皆さんが来るのを待っていたように今日は見事に満開です。

いっしょにおいでいただいている保護者やご家族のみなさんも、おめでとうございます。お子様たちが成長された今日の晴れ姿、よくご覧ください。

そして本日、みなさんのために、ご多忙の中をご臨席いただいているご来賓の方々に心から御礼を申し上げます。日頃から厚いご支援をいただいております、本当にありがとうございます。

さてこれから皆さんは希望された各々の専門分野に従って勉学を進めていくこととなります。これからの2年間、あるいは幼児教育保育学科では3年間の長期履修制度を選んだ人もいるでしょうが、専門分野に応じた資格や免許を取り、しっかりとした専門的な力をもった社会人として、巣立っていってくださることを、私たちは期待しています。本日お越しの保護者の方も同じ思いをおもちだと思います。

そのスタートに当たって、私からみなさんにお話ししたいことがあります。皆さんはエッセンシャルワーカーということばを聞いたことがあるでしょうか。エッセンシャルとは「必要不可欠な」とか「本質的、基本的な」という意味ですから、社会にとって絶対に必要な、なくてはならない基本的な仕事をしている人たちという意味になります。もちろん社会で行われている仕事に、重要な仕事と重要でない仕事の区別はありませんから、何を基準にエッセンシャルだというのが問題です。

実はこの言い方が使われるようになったのは、皆さんも経験している

ところですが、2020年から日本でも猛威を振るった新型コロナウイルスによる感染症に関わりがあります。2020年から世界中で新型コロナウイルスによるパンデミックが発生しました。皆さんも大部分の人が中学生になるかならないかの頃で、あの当時の日本の社会全体に広がった不安と混乱はよく覚えていると思います。緊急事態宣言が出され、学校は休校になりました。志村けんさんとか岡江久美子さんとか有名人が亡くなられたのもこの年の4月でした。

しかしこの事態の中で、感染を恐れて職場に行かず、家でオンラインを使って仕事したりすることが許されない人たちがいました。すぐに思い浮かぶのは、医療の関係者でしょう。医者や看護師はもちろん、検査技師、薬剤師、ソーシャルワーカーなどに加え、病院で事務をする人、薬や医療器具を運ぶ人たちも、医療を支える人たちです。この人たちは感染の危険がある職場でも働き続けなければなりませんでした。介護や福祉の分野でも同様でした。

学校でも小学校から高校までは一斉休校になりましたが、保育園や幼稚園は休園にすることはできませんでした。保育園の保育士、幼稚園の先生たちは、感染に配慮しながらも保育を継続しなければなりませんでした。

医療・介護・福祉や保育・教育だけではなく、生活を支えるために不可欠な仕事は他にもたくさんあります。まず毎日の暮らしに必要な食品、日用品、衛生用品などを販売したり、運搬したりする仕事も絶対に欠かせません。スーパーやコンビニの店員さんもそうです。デリバリーの配達員も同じです。また毎日の生活には必ずゴミが出ます。ごみの処理をする仕事も絶対不可欠ですが、同時に感染の危険性に気をつけなければいけない仕事です。

郵便配達や電車バスなど交通機関での仕事、放送局や通信会社の業務、警察や消防、保健所といった公共の職務も、とくに不安に満ちた社会の安定には不可欠です。一部の地域や国では、ロックダウンと言ってまったくこのような仕事すらシャットアウトしたところもありましたが、その反作用でかえって問題が発生していました。

このようにどんな状態であっても社会にとって絶対欠かすことのできない仕事をしている人たちをエッセンシャルワーカー、あるいはキー

ワーカーと呼ぶことがイギリスで始まりました。これを受けて日本でもエッセンシャルワーカーという呼び方が広まっています。私たちとして特に注目したいのは、これらのエッセンシャルワーカーがどのようにして育っていくのか、どのようにしてその専門性を身につけていくのかという問題です。それについて私が注目したいのは、エッセンシャルワーカーの養成は、地方の私立大学、とりわけ私立短期大学の重要な役割であるという認識が広まっていることです。

たとえば昨年文部科学省のもとに設置された「2040年を見据えて社会とともに歩む私立大学の在り方検討会議」という会議がまとめた報告の中で、「現在では、教師、保育士、看護師等地域のエッセンシャルワーカーや地域経済の担い手となる産業人材等の育成等で私立大学が主要な役割を果たしている。」として、この方向に沿って私立大学に対する支援を充実させていこうと言っています。さらに注意したいのは、このような人材育成の事業は、地域の自治体や産業界と連携したり協力したりすることによってより効果的な成果が生まれるとしていることです。

ここでこのようなエッセンシャルワーカーの話をしたのは、お気づきと思いますが、私たちの滋賀短期大学が目指している教育の方向が、このエッセンシャルワーカー養成に他ならないからです。現在の滋賀短期大学の3つのポリシーなどには、エッセンシャルワーカーという用語は使っていませんが、デジタルライフビジネス学科の食健康コースで栄養士を目指す人たち、総合医療事務コースで医療秘書や病院の総合職を目指す人たち、幼児教育保育学科で保育士や幼稚園教諭あるいは施設の職員を目指す人たちは、真っ先にさきほどのエッセンシャルワーカーに該当する人たちです。しかし製菓マイスターコースで製菓・製パンのプロを目指す人たちも、大事な食べ物を作るという点で立派なエッセンシャルワーカーと言えますし、デジタルビジネスコースの人たちも、公務員になったり、食品や衛生用品の流通・販売・配送に関わる仕事、電気・通信などの技術者としての仕事につけば、エッセンシャルワーカーと言えます。

エッセンシャルワーカーというと、何かかっこよくて尊重される職業だと思われるかもしれませんが、残念ながらその多くはしんどくて体を

限界まで使う仕事が多く、そのわりには待遇はあまりよくなくて、割に合わない仕事だといわれています。実際、コロナ禍のあと、保育士や看護師になろうとする人が減っています。そういう傾向がある中で、今日ここに新入生として入ってくれた皆さんにはぜひその初志を貫いてほしいと思います。今はまだそんなことを言われても困る、そんなつもりで入ったのではないという人もいるかもしれません。しかしそれぞれの学科やコースで学んでいけば、なぜ自分たちが選んだ道が、この社会で絶対必要なかけがえのない価値をもった仕事につながっていくことを分かってもらえると思います。

その意味で皆さんが進路の選択として、この滋賀短期大学を選ばれたのは大正解だと言っておきます。滋賀短期大学の5つの学びが、すべて本当に必要不可欠な仕事へつながっています。しかもそれを地域の中で学んでいくことができます。滋賀短期大学は、現在、大津市だけではなく、滋賀県や高島市など、県内の自治体と連携協定を結んだり、協力関係をもったりして、皆さんが地域の中で活動したり、地域の人たちから学んでいったりすることができるような体制を整えています。地域の中で、地域の一員として学んでいく楽しさ面白さをぜひ味わってほしいと思います。

それではこれからこの滋賀短期大学で、皆さんの豊かな可能性を実現するようにおもいきりチャレンジしてください。私たちも一緒にがんばります。

令和8年4月2日  
純美禮学園理事長  
滋賀短期大学学長  
秋山元秀